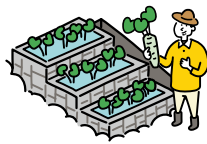




⑧ 農林水産 分野



2030年の 目指す姿

南アルプスから駿河湾までの多彩な資源を活かし、 持続可能な農林水産業を営むまちを実現します

農林水産業は、地域経済の発展はもとより、自然環境の保全、良好な景観の形成などにも重要な役割を果たします。

本市は、オクシズを中心に栽培されている「お茶」や「ワサビ」、温暖な気候を活かした「ミカン」や「イチゴ」など、全国的にも認知度の高い農産物のほか、日本で唯一駿河湾のみで水揚げされる「桜えび」といった、しずまえ特有の水産物など、多彩な資源を有しており、中部横断自動車道など交通ネットワークの充実によって新たな販路が拡大されることで、今後より一層の発展が期待されます。

しかし、従事者の所得減少や高齢化による担い手

不足の加速、地球温暖化に伴う気候変動、国際情勢の変化に伴う原油や穀物等の価格高騰など、市民生活を取り巻く環境は刻々と変化しており、様々なリスクに適応できる環境の整備が求められています。

そこで、新たな担い手の育成や生産基盤の整備、ブランド化の推進・向上、多くの市民を中心に農林水産業に関わることができる環境の充実、省力化や効率化に加えて環境負荷を低減する新技術の導入などに取り組むことで、本市の農林水産業の価値を高め、将来の担い手が夢を持って、持続可能な農林水産業を営めるまちの実現を目指します。

分野を代表する指標

農業における 一人あたりの販売額

R3 現状値: 56万円

R8 目標: 59万円

R12 目標: 62万円

※JA公表資料

市民が市産の農林水産物を 国内外に誇れる 地域資源であると思う割合

R3 現状値: 56.3%

R8 目標: 60.0%

R12 目標: 65.0%

※所管課によるアンケート調査

森林整備面積

R3 現状値: 545ha

R8 目標: 700ha

R12 目標: 700ha

※静岡市調べ

オクシズの旧安倍6村 及び両内地区の人口

R4 現状値: 6,418人

R8 目標: 5,900人

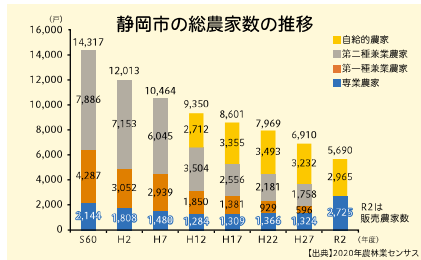
R12 目標: 5,400人

※静岡市調べ

現状と課題

地域経済を支える産業であり続けるために、
高付加価値化や新たな担い手の育成に加え、省力化や
環境負荷低減などの取組が求められています

急がれる担い手の育成・確保と 受け入れ環境の整備



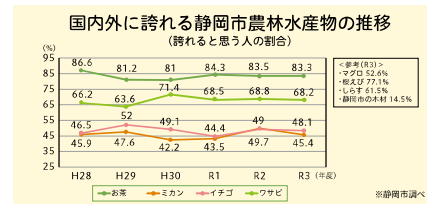
本市の農林水産業における従事者は年々減少しており担い手の確保や、従事者にとって魅力的な就労環境づくりが求められています。

また、国においては地域にとって必要な人材となる業種等を問わず農業に従事する多様な担い手の確保に向けた動きが強くなっています。

このほか、生産物の価格低迷や従事者の所得低迷が懸念され今後、省力化や効率化といった次世代型農林水産業への転換が必要とされています。

そのため、スマート農業など先端技術の導入による作業効率の向上や次代を担うビジネス感覚豊かな担い手の育成・支援を進めていくことが必要となっています。

世界に誇れる農林水産物の磨き上げに よる静岡市ブランドへの期待



本市では、お茶やミカン、ワサビなど、温暖な気候や歴史・文化を背景とした全国的にも認知度の高い農産物を生産しています。

また、日本で唯一駿河湾(しずまえ)だけで水揚げされる桜えびや県下有数の水揚げを誇るしらすなど地域特有の水産物があり、世界に誇る農林水産物が充実しています。

しかし、主要な農産物では価格低迷が続いており、お茶やワサビなどの特産品や地域を含めた「静岡市ブランド」の強化や普及が求められています。

今後は、地産地消の推進や消費者ニーズに合わせた商品の高付加価値化、中部横断自動車道の開通を契機とした新たな販路の拡大などに取り組むことが必要となっています。

作業効率の高い生産基盤の確保と 地球環境に配慮した農林水産業の推進



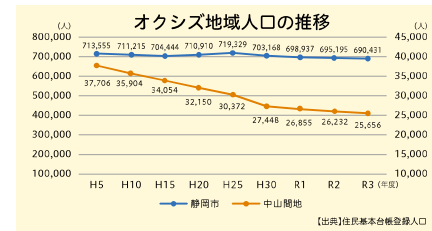
主に清水区内では、畑地帯総合整備事業により農地の集約・平坦化への取組が進められ、生産性が向上した農地が整備されています。

一方で、本市の農林業の多くは、急傾斜地等小規模で生産性の低い土地で行われており、引き続き農地の集約・平坦化が求められています。

また、近年の豪雨や気温上昇、黒潮の蛇行などの地球環境の変化が農林水産業における重大なリスクの1つとなっており、収量減少や品質低下など生産現場に大きな影響が生じています。

今後は、災害に強く、安全・安心な農林水産施設の整備や従事者と消費者双方の地球環境に対する理解を深めることが必要となっています。

オクシズの地域資源の保全・活用と 生活機能の維持



オクシズ地域は、森林や農地、温泉をはじめとする豊かな地域資源を有しており、お茶やワサビなどの農作物や木材を生み出し、水源の涵養や土砂流出防止など、公益的機能(※1)を担っています。

しかし、基幹産業である農林業の低迷や、人口減少が進み、コミュニティや生活機能の維持が困難な地域も生じています。

そのため、オクシズの地域資源を活用した持続的な発展と地域で暮らし続けることができる環境の構築を目指し、森林・農地の保全や賑わいづくり、生活利便性の向上につながる取組を進めていくことが必要となっています。

(※1) 農林水産における公益的機能: 森林などがもつ水資源を保全する働きや自然環境の維持など、農業生産活動・森林管理活動等が果たす経済的側面以外の機能のこと

政策と施策体系図

政策
01産業・産地を担う人材・組織の育成を
推進します

施策1

次代を担う
ビジネス感覚豊かな
担い手の育成・支援

- スマート農業※1等の先進技術導入支援
- 経営講座の開催
- 担い手への助成・支援

施策2

農林水産業を
成長産業にする
多様な担い手の育成支援

- 農業経営に必要な技術や機械整備等に対する支援
- 小中学生を対象とした農林水産業教育

施策3

地域の話し合いによる
新たな後継者の発掘・支援

- 産地を支える担い手の確保
- 農地情報データベース構築によるマッチング

(※1)スマート農業：ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用した省力化・高品質生産を実現する新たな農業

政策
02持続可能な生産基盤の確保を
推進します

施策1

作業効率の高い
生産基盤の整備

- 県営土地改良の推進
- 農道等の新設改良
- 林道整備の推進

施策2

災害に強い、安全・安心な
農林水産施設の整備

- 漁港・海岸施設減災対策

施策3

既存の生産基盤の
安定的な運用

- 農道施設、林道施設の維持管理

政策
03市民が自慢できる農林水産の
静岡市ブランドを推進します

施策1

お茶、ミカン、ワサビなど
強みのある既存産物の
価値の向上

- 静岡市ブランドの確立・支援
- 情報発信力の強化

施策2

食文化としての
「しずまえ」ブランドの
普及促進

- しずまえ鮮魚の普及促進

施策3

地産地消から始まり
国内外の販路開拓を見込んだ
消費拡大

- 静岡市のお茶輸出支援
- 「お茶のまち静岡市」の推進
- 農水産物消費拡大促進事業

政策
04オクシズの地域資源の保全と
活用を推進します

施策1

生活環境に必要な
機能を担う
森林・農地等の保全

- 豊かな農林水産資源の保護
- 森林や農地の保全への取組

施策2

オクシズ地域に
受け継がれてきた
文化や産業の活用

- 市産材・農林水産物等の高付加価値化
- 温泉をはじめとする地域資源の活用

施策3

安心して暮らし続ける
ことができる環境整備

- 生活に必要な機能の維持
- 生活用水・道路等のインフラ整備
- 山間地医療等の確保

施策4

地域と都市部住民の
交流による活性化

- オクシズのプロモーション
- 交流施設の磨き上げ

農林水産分野に関連するSDGsゴール

